



じゃがいものおうち通信

2002年2月18日
NO. 31

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

「じゃがいものおうち」

〒891-4404
TEL/FAX

屋久町尾之間136-6
09974-7-3588

発行責任者 松田 正

‘02年度を迎えて

2月は逃げるの言葉通り早半ばになりました。去る1月20日総会を終え下記のとおり役員も一新。6年目を迎えた“じゃがいものおうち”も草創期を終え療育をはじめとして屋久島の障害者福祉の面では大きな期待と責任を担うようになりました。

“じゃがいものおうち”の財産でもある人材の豊富さ、それぞれの得意分野を生かした楽しい会になるよう今後とも皆さんの積極的な参加をお願いします。

代表：松田 正

副代表：楯 篤雄、佐々木 澄江、日高 広啓

会計：鈴木 捷二郎

書記：四宮 英代

監査：渡辺 一夫、松本 裕子

(松田)

風の中で

屋根から風景を見るのが好きだった。ヒョンな事からその屋根に皆で絵を描こうと云う事になり命綱頼りによじ登った。

絶景かな～!!そこにあるのはモッチョムと空と海と風だった。構想はすぐに決まった。が、描き出してみると画面はデカく難しく、おまけに時折襲ってくる突風に思わず屋根に四つん這いにしがみつく。

その天窓から見ゆる下界は実になんとも暖かそうであった。その暖かさに支えられ、ワイノガヤノ無事屋根画は目出度く完成した。青空の下の忘れ得ぬ幸せな一日。ビールがうまかった。皆さんご苦労様。ありがとうございます。

(黒飛 淳)



じゃがじゃが千恵袋2月3日(日)

じゃがいものおうちは、竣工以来1年と4ヶ月になります。屋根の色はたまたまあった在庫品の白ペンキがあったせいで白色を塗っていました。

そのうち屋根に絵を描きたいから白でいいんだと、それなりに納得していたのですが、本当に絵を描くことになってしまったのです。

縁は異なるもの味なもの、たまたま尾之間在住の黒飛さんとの出会いがあり、話しが盛り上がり、あっという間に「屋根に絵を描こう」となったのです。

しかも自分一人で描くより、大勢のみんなと自由に描きたいと言われ、これはまさにじゃがじゃが千恵袋の仕事となりました。

かくして好天に恵まれた日曜日、安全対策を施した屋根に大勢の人達が上がり黒飛さん指揮のもと、スバラシ～絵が描けました。

これはすごいインパクトです。是非皆さんも見に来て下さい。尾之間の名物となっています。黒飛画伯!感謝!

(楯)





農作業便り

雨で一週間延びたうこん掘り。2月10日に上屋久町のボランティアグループ“つわの葉会”の強力な助っ人と“じゃがいものうち”のメンバーの多数の参加のおかげで予定以上仕事ははかどり洗い方まで終了しました。

ありがとうございました。

また24日にはじゃがいも掘りの予定ですが、安房小の6年生のPTAの皆さんが手伝ってくれる予定です。メンバーの皆さんも多数参加してくださいませようお願いします。

どうかいい天気になりますように！ (松田)



お知らせ

皆さまのご協力のおかげで**お休み処**が、近々営業開始の運びとなりました。

が、名称がまだきまりません。

「喫茶じゃがいも」「おやすみ処、じゃがいも」等、拳がつていますが、他にすてきな呼び名がありましたらお知らせください。

ぜひお立ち寄りくださって、熱いコ-ヒ-・お抹茶で温まって下さい。

(裕子)

春休み 「アイ・ラウ”・フレンズ」ファミリー映画会

～じゃがいものうちのビックな企画だよ～

1、趣旨及び内容 この映画は「ろう者・聴者」であれ、力を出せる者がお互いに支えあう姿が写し出されており、この映画を観ることで「障害をもつ」ということに、一歩認識を深めてもらうことを願って上映をすることにしました。

2、日時・場所 3月23日(土) 屋久島離島開発総合センター 15:00と19:00 2回上映

(上屋久町では「じゃがいものうち」が主催ではありませんが、前売券は共通で使用できます。上屋久町の方にも販売してください。)

3月24日(日) 屋久町総合センター 10:00と12:30 2回上映
屋久町中央公民館 16:45と19:00 2回上映

3、主催 「じゃがいものうち」・手をつなぐ育成会 聴覚障害者の会

4、後援 屋久町教育委員会・屋久町社会福祉協議会・屋久町女性団体連絡協議会
屋久町文化協会・屋久町PTA連絡協議会・屋久町子供会育成連絡協議会
屋久町民生委員児童委員協議会・屋久町老人クラブ連合会
屋久町区長連絡協議会

5、入場料 前売 当日
小学生・中学生 800円 1,000円
高校生・障害者・シニア(60才以上) 1,000円 1,200円
大学生・一般 1,300円 1,500円

6、宣伝方法 ポスター B2 100枚 チラシ B5 3,500枚(新聞折込2回)

動員目標は、1,000人です、宣伝物と前売券は、2月末にできてくる予定です。
宣伝物と前売券が出来てきましたら、皆様に連絡しますので前売券の販売をよろしく願います。
担当 鈴木 四宮

療育の話！

昨年より屋久島にも小規模療育通園事業の導入をしよう、という話があがっています。その前に、今一度、「療育」ってなんだろう？という疑問に対して説明いたします。

療育ってなあに？

「3つ子の魂100まで」という言葉通り、子供達は0～1才くらいまでの間にいろんな基礎・基本的な力が芽生え始め2才くらいまでには大体そろいます。力がそろい、関係が結ばれてゆく結果として言葉がうまれてきます。人として関わることが楽しい、遊ぶことが楽しい、遊びや生活の中いろんな発見をしていく子供達は「アッアッ」と指さして教えてくれたり、楽しさや嬉しさを手を叩いたり飛び上がったりと様々な形で表現してくれます。

そうしながら、「仲間と一緒にだともっと楽しいね♪」と、仲間との関係を広げていきます。その時必要になってくるのが、幼稚園や保育園という子供集団！しかし、人と関わることに弱さを持っていたりハンディを持っている子供達には、小集団で丁寧に関わってゆくことが必要です。その場が**療育**！つまり・・・

子供が分かる生活の流れ

お互いに育ち合える仲間集団

手ごたえのある遊びの中味

両親援助

この4つの柱がいっぺんに関係し

保障されてゆく場が**療育**なのです。

(開門町療育センター - さつき園会報より無断流用しました。すみません)

簡単に言えば、這えば立て、立てば歩めの親心、発達に心配のある子供さん達に、医療、保健、福祉、教育の関係機関が連携して、より適切な指導をし、地域全体で子供達を育ててゆく事だと思えます。

その療育の場を作ろうと、昨年11月30日に県福祉課、保健所、社会福祉協議会、両町福祉課、保健婦、親の会が集まり、話し合いました。そこで来年度に向け、つまり今年中に小規模療育通園事業を導入するという意志の確約をしました。事業実施主体は屋久町、委託先は尾之間診療所でスタート致します。

そして初めての試みなので、お互いにわからない事が多いので、県内で早くから療育の実践を積み重ねている、鹿児島こども療育センター - の大迫より子先生に御来島を願いました。快くお受け頂き12月19日に屋久島で療育教室を開き、30



名を越える各関係機関の方々の参加の中で初めての専門的な療育の実際を体験しました。午後は講演と療育の場作りに向けての質疑応答、療育の場の必要性を更に深めることになった有意義な1日となりました。

現在屋久島には療育を必要としているこども達の数は保健所で把握しているだけでも15～16名はいます、今後も統計では出生数の3%は産まれてくるだろうと推定されます。1日も早く療育の場が出来るように、また、いい療育の場になるように準備を進めているところです。通園事業が始まるまで指導員の養成の為に研修費、試運転の間の経費等の予算はほとんどありません、じゃがいものおうちとしては募金、寄付金、活動だけではなく、じゃがい



もやウコンの販売、映画上映などの活動にて費用の捻出に力を入れています、皆様の御理解とご協力を今後期待することになります。よろしくお願いいたします。(楯)